「カネ部門」総合評価報告書

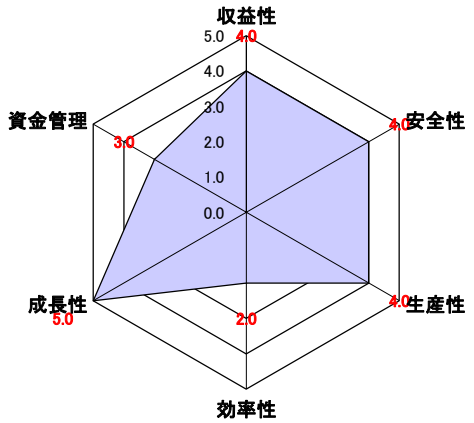
製造業

評価結果

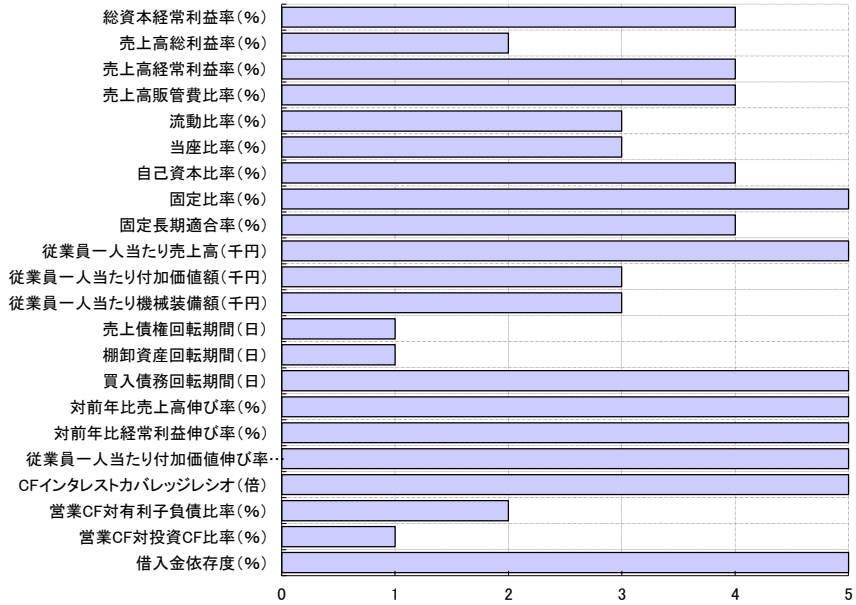
定量分析（比率分析）				
評価指標		点数	コメント	レベル
収益性	**総資本経常利益率（%）**	4	収益性に関しては、特に問題はありません。 この中で、特に重視する指標である総資本経常利益率及び売上高経常利益率が業界平均値を大きく上回っていますが、売上高総利益率が業界平均を下回っており、注意が必要です。	4
	売上高総利益率（%）	2		
	売上高経常利益率（%）	4		
	売上高販管費比率（%）	4		
安全性	**流動比率（%）**	3	安全性に関する資料については、全ての指標において業界平均値又はこれを上回る水準であり、問題はありません。 ただ、前期との比較を見た場合、流動比率、当座比率及び自己資本比率がやや下回っており注意が必要です。	4
	当座比率（%）	3		
	自己資本比率（%）	4		
	固定比率（%）	5		
	固定長期適合率（%）	4		
生産性	**従業員一人当たり売上高（千円）**	5	生産性に関する指標は、特に問題はありません。	4
	従業員一人当たり付加価値額（千円）	3		
	従業員一人当たり機械装備額（千円）	3		
効率性	**売上債権回転期間（日）**	1	効率性に関しては、やや劣る水準となっています。 買入債務回転期間が業界平均値を大きく上回っているものの、売上債権回転期間及び棚卸資産回転期間が、業界平均値を大きく下回る水準となっています。 売掛金及び棚卸資産の増加が主因ですが、増加理由を見ると売上高増加に伴うものであり、現時点では問題はなさそうです。	2
	棚卸資産回転期間（日）	1		
	買入債務回転期間（日）	5		
成長性	**対前年比売上高伸び率（%）**	5	全ての指標において、業界平均値を大きく上回っており、かなり優秀であるといえます。	5
	対前年比経常利益伸び率（%）	5		
	従業員一人当たり付加価値伸び率（%）	5		
資金管理	CFインタレストカバレッジレシオ（倍）	5	借入金依存度、CFインタレストカバレッジレシオについては、業界平均を大きく上回っており、問題はありませんが、営業CF対有利子負債比率及び営業CF対投資CFが業界平均値を下回る水準となっています。 この状況が一時的であれば問題はないと思われますが、継続的に続くようであれば、資金繰りと有利子負債を見直す必要があります。	3
	営業CF対有利子負債比率（%）	2		
	営業CF対投資CF比率（%）	1		
	借入金依存度（%）	5		

注：評価指標の太字は重点評価項目です。点数、レベルは（1～5）までの5段階で記載しています。

戦略項目のバランス



評価指標の比較



「カネ部門」総合評価報告書

定性分析

科目			チェック	コメント	評価
財務の健全性	資産	売上債権	✓	資産内容については、概ね良好です。 売上債権が増加しているものの、取引先が小口で分散されていることに加え、支払期日も分散されていることから、当面は資金繰りに問題が生ずることは想定しづらい。 また、有形固定資産、投資有価証券、繰り延べ資産について、適正に管理しており、特段の問題はない。	優良
		棚卸資産	✓		
		貸付金			
		仮払金・立替金			
		有形固定資産	✓		✓ 良好
		投資有価証券	✓		
		繰り延べ資産	✓		普通
	負債	買掛金	✓	負債内容についても問題はありません。 また、長期借入金が増加しているものの、上場企業であり、順調な業績であることを踏まえると適正な借入水準であると判断できる。 売掛金と同様仕入債務（買掛金）が大きく増加しているものの、支払先及び支払手形サイトも分散されており特に問題はありません。	やや問題あり
		支払手形	✓		
		未払金			
		借入金	✓		問題あり
財務の体力度		役員報酬	✓	財務の体力度においても問題はなく、十分な水準を維持しています。 役員報酬については、監査役、会計監査人においてチェックされ、株主総会において承認されていることから適正に対応されています 福利厚生に関する費用についても社員のモチベーション向上に役立っており、金額も適正な水準であると考えられます また、貸倒引当金、減価償却に関する金額についても定期的に行われており問題はありません。 剰余金の計上が毎期行われており純資産についても充実している	✓ 十分
		法定福利費・福利厚生費	✓		
		貸倒引当金・貸倒損失処理	✓		やや十分
		減価償却実施額	✓		
		純資産	✓		普通
		借入金月商倍率			
		債務償還能力			やや不十分
		地代・家賃			
					不十分

備考：色付き部分（定量分析評価、総合評価、バランス配分による評価、カネ部門総合評価を入力してください。
コメント欄は、科目のチェック区分に応じて記載しています。

分析項目別評価並びに総合評価

バランス配分によるコメント

全般的に良好な水準となっています。
成長性は申し分なく、安全性、収益性及び生産性についても基準値を上回っていますが、効率性について基準値を
下回っています。

定量分析評価	（1～5を選択してください） ⇒	4	良好な水準です

定性分析評価	財務の健全度	→	良好
	財務の体力度	→	十分

総合評価	（Ⅰ～Ⅴを選択してください） ⇒	Ⅳ	良好な水準です

カネ部門総合評価

定量分析、定性分析ともに問題なく、「カネ部門」（財務面）においては問題はありません（優良企業です）。
効率性において、基準値を下回る数値となっていますが、この主因は、売上債権と棚卸資産の増加により、売上債権
回転期間及び棚卸資産回転期間の数値が悪化していることによるものです。ただ、同時に売上高も増加していることから
現時点においては問題がないと思われますが、売上高が減少した場合の不良在庫や商品の陳腐化に注意が必要だと
思われます。
一方、定性分析においては、問題のある部分はありません。